

## ◎旧朝香宮邸の歴史を訪ねて

しろかねいまむかし  
連載◆第9回／白金今昔(その3)

### Residence of Prince Asaka 1933—

明治政府が近代化の政策を推し進めていく過程で、かつて江戸市中の大半を占めていた大名屋敷群は、それぞれの立地を活かして官用地や軍用地に転用され、麹町周辺や麻布、白金、高輪などの高台には、皇族や華族、政財界要人の邸宅が次々と築られました。

現在の庭園美術館と国立自然教育園の敷地の大半を占めていた讃岐高松藩松平家の下屋敷は、明治4年(1871)同家より上地<sup>じょうち</sup>\*1され、明治7-8年(1874-75)頃に海軍の火薬庫が設けられました。その後、陸軍の火薬庫に転用され、「白金火薬庫」の名称で知られていましたが、大正6年(1917)宮内省に献納されて、「白金御料地」となりました。その背景には、将来の皇族賜邸地としての活用や、迎賓館設立などの計画があったといわれています。



図1

大正10年(1921)には、白金御料地の西南部の一画が朝香宮賜邸地として割譲されました。この年から昭和3年(1928)まで、土地の管理が宮内省帝室林野局から同省内匠寮<sup>たくみ</sup>へと移管され、地均や旧火薬庫の土塊取り壊し、排水管の埋設工事などが行われたと『白金御料地沿革誌』には記されています。これは昭和4年(1929)から始まる朝香宮家白金新邸建設のための基礎工事であったと考えられます。

大正10年当時の朝香宮邸は、旧薩摩藩松平(島津)家の下屋敷で、明治期には後藤摩次郎邸のあった高輪南町<sup>2</sup>にありました。昭和8年(1933)5月、建物の完成に伴い、宮家は高輪南町から新邸へと移られ、以後白金台のこの地は14年間、朝

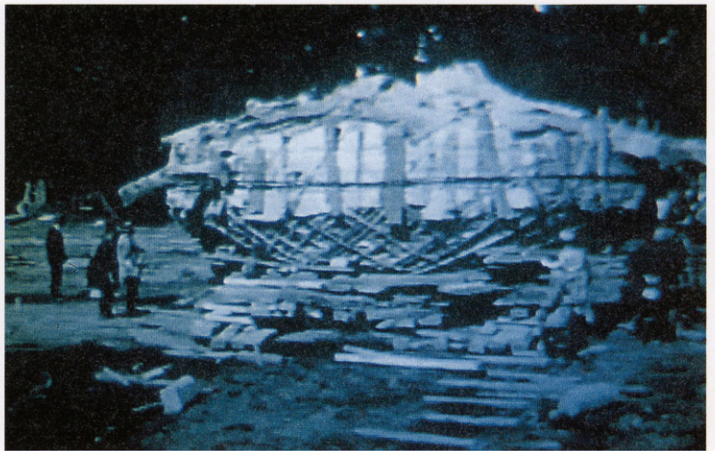


図2

香宮家本邸として機能しました。

昭和22年(1947)、皇籍離脱によって宮家が同地を離れると、旧宮邸は吉田茂外務大臣・首相公邸として使用された後に西武鉄道の所有となり、昭和30年(1955)からは、赤坂迎賓館が完成するまで、国賓・公賓を迎える迎賓館として用いられました。

昭和56年(1981)、旧朝香宮邸の土地と建物は東京都の所有となり、竣工から50年を経た昭和58年(1983)、東京都庭園美術館として新たな歴史をスタートさせました。白金御料地は、当初の計画通りに利用されることはなく、戦後は国有地として大蔵省(現財務省)を経て文部省(現文部科学省)所管となり、敷地一帯は昭和24年(1949)に「天然記念物及び史跡」に指定され、国立自然教育園として現在に至っています。◆



図3

\*1 上地…土地をお上に返納すること。

\*2 高輪南町…現在のJR品川駅前、ホテルパシフィック東京の周辺。

図1. 明治20年(1887)の『東京実測図』(内務省地理局)。今日では、陸軍の火薬庫として利用されていた時期の遺構は見るできません。この地図から、地形を活かして火薬庫(方形の土堤で区画された建物)が敷地内各所に設けられていた様子を見ることができます。

図2. 敷地内の大樹移植工事(宮家旧蔵の16ミリ・フィルムより)。建設に先立ち、敷地内の整地とともに樹木等の移植が行われました。庭園造営に必要な樹木は、高松藩邸時代からの古木を活かすとともに、一部は隣接の御料地内より払下げを受けて移植されました。

図3. 昭和16年(1941)9月20日撮影の航空写真。中央緑地内の建物が朝香宮邸です。アール・デコ様式の本館左側には、侍女室であった日本家屋の屋根が見えます。宮邸下方の9棟の建物群は、朝香宮家付きの宮内省職員官舎です。現在の首都高速2号線と外苑西通りにあたる道路は、この時期にはまだ開通していません。